

名古屋市子ども医療費助成制度の対象者拡大のお知らせ

令和4年1月診療分から、高校生世代(※)の方の通院分の医療費を助成します。

新たに対象となる方がいるご家庭に、10月下旬に「子ども医療証交付申請書」を送付しますので、必要事項を記入し、申請してください。

申請をされた方に12月末頃に医療証を送付します。

※高校生世代とは、「16歳到達の年度初めから18歳到達の年度末までの間の方」をさします。

○すでに子ども医療証(入院)・ひとり親家庭等医療証・障害者医療証をお持ちの方は、手続き不要です。

○現在中学3年生の方には、3月中旬に医療証を送付します。手続きは不要です。

○生活保護を受けている方は対象になりません。

【お問い合わせ】健康福祉局生活福祉部医療福祉課福祉医療係
052-972-2574

「2020東京オリンピック」で活躍された会員



私は2020年東京オリンピックに、柔道のオフィシャルメディカルスタッフ(以下、OMSとする)として、2021年7月24日(土)から31日(土)まで参加した。今まで世界選手権レベルのメディカルサポートの経験はあったがその活動内容の違いに驚いた。まず開催前にOMSの考え方や方針、緊急時の対応や医師、理学療法士、看護師と連携する手順などをeラーニングで学習し、さらに日整から選ばれたOMS内でも心構えと規律を徹底して再確認した。そしてオリンピックという世界最大規模のスポーツイベントでの我々の行為は常に慎重な対応が必要で、活動の難しさを学んだ。

大会期間中は練習会場となる講道館と試合会場となる日本武道館の両方で活動した。講道館では各国の練習手順の違いと日本人コーチのいる国が多いことに驚いた。そして外国人選手が嘉納治五郎像の前で記念撮影をすることが多く見られ、ここが柔道の総本山、まさに聖地であることを実感した。

日本武道館では、本大会柔道競技アスリートメディカルスーパーバイザーである医師から緊急時の役割分担、動線などご指導いただいた。頸椎損傷を想定したシミュレーションではスクープストレッチャーを使って繰り返し練習した。特に頭頸部を固定する役割は生命に関わる部分であり、頭部固定をするDrと連携してヘッドイモバイザーを装着する作業は何度も練習した。このように柔整が医療チームの一員として医師らと連携する機会はとても貴重であったが、同時に我々が今後、意識して目を向けなければならないことだと感じた。

最後に、我々が他職種と連携することは柔整に対する理解と信頼が深まることにつながり、孤立しないために今後も積極的に行わなければならない活動であると切に感じた。このような機会を与えて下さいました、公益社団法人日本柔道整復師会へ深く御礼申し上げますと同時に、今後も医療チームの一員として活動できる機会を増やしていただくことをお願いし、私の活動報告とする。

活動にあたり常にイニシアティブを取って下さいました東京都柔道整復師会の先生方へ深謝いたします。

(半田支部 山田直樹)

オリンピックで学んだ今後への試み

<はじめに>

今回の活動を通して思う事は全てにおいて斬新であった事に尽きる。従来の救護活動、トレーナー活動と比べ大きく明確な相違点があった。従来の活動であれば詳細に結果発表する所なれど、今回の活動報告はあえて、報告形式を変える事が最も分かり易いと考え今回の報告とする。

<活動結果>

●具体的な活動がない

医師が事故や怪我の際に診察する。その指示で具体的な処置をする部隊がPT。それをサポートするのが私達。ところが、そのサポートとは何かと思えば怪我人が出た時の救急搬送であった。今回のミッションではスクープストレッチャーを使用した。私の当番の日は何も問題なく出場機会はなかった。が、別の日に1回あったようだ。

●情報による事前学習の徹底

オリンピックが始まる前からZoomによる事前学習(最後の回を含めて5回実施)。オリンピックが始まってからはグループラインによって毎日2会場で結果報告や翌日への引継ぎが上手くできた。それによって準備等上手くいったと思う。

●感染症対策で会場を安全な環境とすること
次亜塩素酸を床、フロア、畳の上へ噴霧すること、窓は全開にして風向きも一定にするため、扇風機もフル活用して完全な形での換気を目指し実行した。

●活動日数

会場別研修、ドレスリハーサル含め私自身は5日の活動であった。こういった活動で2日時間をかけたことも普段との相違点であった。

<特記事項>

試合中や練習中の吐瀉の怪我が起きた場合の対処は?という点について。会場奥の医務室にドクターが控えていて簡単な応急処置が施せる。が、それ以上の治療を要する場合はポリクリニック。救急な場合は提携している日本大学医学部病院への搬送が計画されていた。

<今後の課題>

日整から選抜頂き今回の経験を得た。活動を通し感じた事は1点のみ。我々には我々オリジナルな職域がある。今回の活動は正直、それが全く活かされていない。担架やストレッチャーが当たり前前に自在に扱える前提で我々の利点を医科学委員のドクターに認めて頂くために今後の1つ1つの活動がカギになる。要は医科学委員の先生に認められて初めて我々もPTと同じく医師の診断のもと、治療を施せるという事であろう。

(豊橋支部 井原正晴)



令和3年(2021年)7月22日(木)から7月31日(土)まで大野将平選手をリオオリンピック(2016年)代表決定戦の少し前から身体のケアをさせて頂いているご縁で東京オリンピックサポートメンバーとして帯同してきました。(ボランティア)

22日(木) 宿舎のビジネスホテルへ移動し深夜サポートメンバー、大野選手と合流

・23日(金) 味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)にて全日本代表メンバー及び監督

コーチを含むスタッフと合流。男子、女子チーム共に調整練習(柔道場)練習中及び練習後ケア(選手数名、スタッフ含む)

・24日(土) 前日同様

・25日(日) 午後から東京ドームホテルへ移動

(個人戦出場選手は試合前日と当日宿泊)

・26日(月) -73キロ級試合当日(日本武道館)

サポートメンバーは会場隣り科学技術館内の全日本柔道連盟科学研究チームブース内にて待機しそこでケアを行う。緊急事態発生時はセキュリティエリア出口公園内通路にて(屋外)ケア(実際に出勤有り)

・27日(火) 午前中にNTCへ移動午後から団体戦に向けて調整練習練習中、練習後ケア

・28日(水) 調整練習(柔道場) 練習中、練習後ケア

・29日(木) 前日同様

・30日(金) 調整練習(柔道場) ケアの後選手は選手村へ移動

・31日(土) 団体戦当日

サポートチームは個人戦同様科学技術館にて待機、緊急事態にも備える(出勤有り)

・8月1日(日) 手続き、検査等終了の後サポートチーム解散帰宅以上が全体の活動内容です。

もちろん全日程ホテルやNTC、柔道場、科学技術館等に於いてPCR検査、消毒、行動履歴書提出等の徹底したコロナ対策も実施され現場での緊張感が拍車をかけられました。

連日のメダルラッシュに沸いた今回の柔道チームのオリンピックでしたが選手は元より裏でサポートするメンバーの方々の努力と御苦労は計り知れないものが有りました。

その一助を担う事ができたという自負と共に柔道整復師の知識、技術を日々努力研鑽し何時でも活動できるようにしなければならぬとさらに心の帯を引き締め直しました。

最後に今回大変お世話になりました全日本柔道連盟、天理柔道会の方々、旭化成柔道部の皆様に感謝とお礼を述べさせていただきます。

ありがとうございました。

(半田支部 加藤 修)

Welcome!!

新入会員



武内 幸夫会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
武内 幸夫	S45.12.2	岡崎	米田柔整	初段	マラソン